

## はじめに～本書の使い方

本書では、地域体制整備コーディネーターとして活動していくにあたってのポイント  
を詳述しています。

研修で活用する際は、下記に示しているポイントを踏まえた研修プログラムをご検討  
いただき、本テキストは副読本等としてご活用ください。

なお、本書に示しているのは、標準的な進め方及び目標とすべき方向性です。必ずし  
もこのとおりにしなければいけないということではありません。各地域体制整備コー  
ディネーターのご所属や勤務形態等にあわせて柔軟に考えてください。

---

### 都道府県内で研修を実施する際のポイント

---

#### ①事業の背景の再確認

何故、都道府県事業として「退院可能な精神障害者」の地域生活への移行支援  
に取り組むのか、ということを確認します。

→事業の関係者が理念を共有した上で、各圏域、各所属機関の特色に基づく支援  
を展開することについて共通認識を構築することを目指します。

#### ②地域体制整備コーディネーター配置方法の提示

都道府県事業担当者より、行政としての本事業に対する考え方と、地域体制整  
備コーディネーターの具体的な配置方法（直轄・事業委託・一部委託など）を示  
し、現状について情報提供します。

→地域体制整備コーディネーターの配置方法として、都道府県が目指している体  
制と、現状を明示し、配置の必要性に関する共通認識を高めます。

#### ③都道府県内の精神保健福祉施策の現状と課題の提示

以下のような項目について提示し、受講者が所属する圏域ごとの実情を俯瞰で  
きることを目指します。

- ・これまでの地域移行支援施策の進捗状況
- ・市町村単位の相談支援事業の状況
- ・圏域ごとの地域の社会資源の情報（退院可能な精神障害者の地域移行に関する  
数値目標（障害福祉計画等）と実態 等）

#### ④ 地域体制整備コーディネーターの意義と役割の提示

地域体制整備コーディネーターは何を重視し、どのような発想をもつべきかを示した上で、役割として期待されていることを提示します。

→個別の利用者支援における視点と、個々の支援に共通する課題を見つけ、地域づくりにつなげる意義・方法について順を追ってポイントを示します。

#### ⑤ 演習

研修では、模擬事例などを活用して参加者同士が話し合い、共に考える演習の時間を確保しましょう。具体的には、以下のような話し合いの柱を用意します。

- ・地域移行支援のための個別支援計画立案に関する検討
- ・所属圏域の地域課題を抽出し、地域づくりの発想に展開させるための検討

→受講者各自が自身の所属機関のある地域情報を把握できているかを再点検したり、地域自立支援協議会の活用を再認識することが課題となります。